

## 令和元年度第2回米子市社会教育委員の会 会議録

### 1 開会

### 2 報告

#### (1) 令和元年度社会教育功労者表彰について

※文部科学大臣表彰である上記表彰を、米子市社会教育委員である實近孝子氏が受賞されたことについて、事務局から報告しました。

#### 《ト蔵会長》

先日、實近委員が表彰を受けられました。實近委員の今までの活動は、私も近いところで見てきましたし、一緒に活動することも多くありました。子どもと地域の関わり、当時まだ目新しかったパソコンを利用して作成した、色々な広報物を配布しての事業PR、積極的な研修参加など、長年継続して動いてられました。今までの功績に対して、皆さん拍手をお願いします。

#### 《實近委員》

委員になって長く経ちましたが、今年80歳になりました。先日、これを機会に次期委員はお断りしようと思いましたが、事務局にお伝えしたところ、では推薦してみまじょうか、と言われました。通らないかもしれませんよ、と何度も言われながら期待せずに待っていたら、おめでとうございます、と電話がありました。でも私は今でも、これはめでたいことなのかな、と感じています。私は色々動いていますが、人のためとは思っていません。自分のスキルアップのため、新しいことを身につけるために楽しんでやっているだけなので、賞もらってもいいのかな、というのが本音です。

東京での授賞式も、どうしようかな、と悩みました。でも、しだいに文部科学省って行ったことないな、どんなところかな、という興味が湧いてきて、行くことにしました。

色々振り返ると、地元では色々活動してきたかな、とは思いますが、ひとつ残念なことがあります。市の社会教育委員として市全体に何かできたかな、と考えると、十分ではないな、と感じます。それが残念です。皆様、長い間、ありがとうございました。

#### 《ト蔵会長》

委員はこのたび退かれますが、個人としての活動は終わりではないですよ。これからも頑張ってください。

#### (2) 第42回中国・四国地区社会教育研究大会岡山大会について

#### (3) 令和元年度鳥取県地域コーディネーター養成講座について

※上記研究大会及び養成講座について、参加された米子市社会教育委員である星野章作氏から報告いただきました。

#### 《星野委員》

私は、第42回中国・四国地区社会教育研究大会岡山大会に参加しましたが、その会の報告だけではなく、委員として今までどのような思いでいたのか、そ

してどう感じたからこの会に参加しようと思ったのか、という経過もお話しておこうと思います。

まず、事務局から委員就任依頼の話があったとき、社会教育とは何か、という疑問を持ちました。委員として何をするのか、とも思いました。就任当初に手にした資料には、色々な研修や地域の活動に参加して、見識を深め、その情報やノウハウをまわりに広めることもひとつの役割、とありました。現実には自分は何をしているだろう、と顧みると、まだまだ未熟な部分はあるが、色々な団体に関係しているので、環境がある点では恵まれている、じゃあせっかくだから挑戦してみよう、と決心しました。

そうこうするうちに、昨年7月の研修で山田晋氏の講演をお聞きする機会がありました。面白おかしく社会教育についてお話しされ、非常に刺激を受けました。その時に、社会教育施設に興味湧き、市の児童文化センターに注目しました。私は以前、児童文化センターでト蔵会長と一緒に活動していたことがあるので、ここでならやれる、と思い、地域の青少年育成会と相談して、子どもが参加する事業を計画し、実施しました。

その次に、今年度から始まった鳥取県地域コーディネーター養成講座に参加しました。これが難しかったです。地域と学校が協働する、そのなかでコーディネーターがファシリテート能力を発揮して動く、始めはまったく理解できなかったです。地域と学校が連携して、いかに地域を上手く動かすのか、というテーマですが、なぜ今そのことが大事なんだろう、という思いもありました。ただ、会を重ねたり、他の研修にも参加すると、地域、連携、協働というキーワードが見えてくるようになりました。

私は地元の学校の授業にも入って色々やっていますが、ただ近所のおじさんがやって来て何かやっている、ではいけないと感じるようになりました。学校側ときちんとカリキュラムの目的を話し合い、子どもと接する必要があることを認識しました。そのことが、地域をよくすることに繋がっていくのではないかな、と思っています。私からは以上です。

《今出委員》

ファシリテーターについての話がありましたが、地域コーディネーターを実際に地域でやるとなると、かなり時間の拘束も受けるような気がします。想定としては、お仕事を退職されたような方を見込んでいるのでしょうか。

《星野委員》

やはり現役世代の方は難しいでしょうね。

《今出委員》

スポーツ少年団では、比較的若い方が指導者として熱心に子どもと向き合っておられるような気がするのですが、それは社会教育とは違うのでしょうか。

《ト蔵会長》

我が子に対する指導、親と子の関係であれば社会教育とは違う気がしますが、そうでなければある意味で社会教育的な活動、と言えるかもしれません。

保護者に対する研修とか、保護者の学びの機会はありますか。

《事務局》

指導者に対する研修はあります。保護者に向けてのアプローチ、社会教育を全面に出しての研修、というものはないと思います。

《内藤委員》

指導者にとっての研修はあります。ただ、自分の子どもがチームから卒団してしまうと、親も離れてしまう、というのが大半だと思います。スポーツ少年団は学校とも離れた、わりと独立した組織ですからね。

《ト蔵会長》

保護者に向けて研修して、社会教育というものを広く理解してもらおう機会があるとよいですね。

《實近委員》

私の地域では、地域の活動に野球部、サッカー部、といった団体で参加してきます。

《今出委員》

地域によって熱量がまったく違いますよね。その違いって何かな、と思うんです。

《實近委員》

私の地域では、学校、PTA、子ども会、スポーツ少年団、それぞれが連携しているので、どこかが独立している、という雰囲気はないです。困ったらお互いに助け合っています。

地域コーディネーター養成講座は、段階的に毎年ステップアップした内容になっていくのですか。1年目受けた人は2年目にさらに実践的な講座を受講できる、とか。

《事務局》

今年度は全4回でしたが、前半2回が基礎編、後半2回が実践編です。毎年ステップアップしていく、ということにはならないと思います。

《ト蔵会長》

県の講座だけでなく、市としてもコーディネーターを養成する、という考えはないですか。県の研修会に参加するのはなかなか日程的に難しい、というのであれば、米子市の公民館職員向けに研修を実施する場を設けることも考えるべきかと思います。

《星野委員》

コーディネーターやファシリテーター。学んだ方でないと、何する人なのか分かりにくいので、言葉の使い方も注意する必要があるのではないですかね。

《實近委員》

この講習は、地域で活動しておられる一般の方でも受講できるんですよね。

《事務局》

できます。無料です。今年度は、4回全て参加されたのが社会教育委員1名、米子市公民館運営審議会委員2名、公民館長3名、公民館主事1名、生涯学習課職員2名でした。

《今出委員》

可能なら、講座をネット配信でもされれば、参加人数は多くできますよね。

《足原委員》

私も、先日eラーニングで勉強して資格を更新しました。多少時間はかかりますけど、現地に行かなくてもできる、仕事を休まなくてもできる、というのは便利でした。県の研修も、ネット配信が可能になれば休日でも視聴できていな、と思いました。

《小谷副会長》

確かに時間も無いし、私は人から社会教育に関する能力を引き出す、それをまとめる力もないので、困っているところです。

《内田委員》

学校では、新しい指導要領が来年度から完全実施になります。そこで子どもに必要とされる力は、学校教育だけでは学ばせることに限界があります。学校と地域はずっと繋がってきています。このことは、間違いなく子どもにとって大きな力になっています。地域コーディネーターという方が、今後各地域に設置されるようになるのであれば、その果たす役割はとても効果的なものになると思います。どんな方がどんな役を担うのか、我々はその下支えというか、制度をきちんと整えていくことを考える必要があります。

《内藤委員》

コーディネーター養成ということですが、今既に活動しておられる方で、求められるような活動をしている方もあるな、と思ったりもします。子ども達との関わりなど、自然にそのような動きをしている方もあります。子どもが学校を卒業してからも、継続して地域との関わりが持てるような流れができれば、より良いと思います。

《ト蔵会長》

公民館を建て替えるとき、足腰が弱くなった高齢者のために2階建てではなく、平屋建てを検討してもらいたいです。

《事務局》

方向性としては、公民館を建て替える場合、土地が確保できるのであれば平屋で建てることにしています。現在建築中の加茂公民館も平屋建てです。

《内藤委員》

平屋建て、というのは、防災拠点としてはどうでしょうか。水害対策として、適切と言えるのでしょうか。

《事務局》

米子市の場合には、水害対策ということを市内全地域で考えないといけない、という状況ではないです。

また、全ての公民館を避難所に指定している訳ではないので、必ずしも水害対策のために2階建てにする、ということにはならないです。

《内藤委員》

避難所として、生活感のある施設が求められる、という視点から、学校や体育館よりも、やはり公民館の方が適当だと思います。

《今出委員》

防災の意味でも、公民館にはWi-Fi設備を設置してほしいです。安否確認なども可能です。

《星野委員》

以前は、会議資料として教育委員会予算を提供してもらっていたと思うのですが、今ないですね。これは何か意味があるのでしょうか。

《事務局》

社会体育部門、文化財部門が教育委員会から市長部局へ移管となるタイミングで、それらの資料は提供を取り止めました。理由は、教育委員会全体の予算を見た時に、金額も事業数も大幅に減ったためです。

《星野委員》

それは、今後も作成する考えはないですか。

《事務局》

市長部局とはいえ、体育も文化も社会教育の分野であることには変わらないので、今後作成するべきではないかと思えます。検討します。

《星野委員》

教育費の予算枠の中にはないかもしれませんが、その資料があると、とても理解しやすかったです。

(4) 成年年齢の引き下げに伴う米子市成人式の在り方について

※前回協議した上記の件につき、その後の検討状況を事務局から報告しました。

《卜蔵会長》

まず、先日米子市公会堂で行われた成人式について、数十年ぶりにこの会場で開催という状況で行われました。

《事務局》

公会堂は、物理的に新成人全員がホールに入りきらない、という状況ですので、会議室にモニターを設置して、ライブ中継などの対応も行いました。来年度は、米子コンベンションセンターの修理も終わり、利用できるようになるので、そちらで実施する予定です。

### 3 その他

《事務局》

公民館の在り方検討について、そもそも検討に至った経緯と、現在の検討の進み具合をお伝えします。以前から公民館の在り方について議会質問のあったこともありましたが、国の全体的な流れとして、地域づくりは社会教育が支援していく、ということがここ数年間言われてきました。そのようななかで、伊木市長が就任された際、公民館はもっと地域づくりに関わるべき、という意向があり、平成30年度から検討を始めた、という状況です。今年度は色々な関係者の方の声も伺い、3月末をめどに取りまとめる予定です。

### 4 閉 会